



復興に向けて

阪神・淡路大震災の記録

平成7年

1995

西宮市

平成7年1月17日午前5時46分、 震度7の惨劇



一瞬の崩壊。同一髪で止まったスキーバスの乗客は無事であった。(神戸線 本町付近)



西宮市内の3カ所で阪神高速道路が倒壊。(神戸線 甲子園付近)
橋脚部分が無残に崩れ落ちた箇所も数多くみられる。(右上)

目次

●阪神・淡路大震災のつめあと

平成7年1月17日午前5時46分、震度7の惨劇	-2
私たちのまちが崩れていく	-4
兵庫県南部地震による西宮市の被害	-6
被害の大きかったまち	-8
寸断されたライフライン	-10
家族が…、家が…、まちが…	-26

●がんばれ、みやっこ

必死の救出・救援が不眠不休で続く!	-12
市内194カ所の避難所に、最大4万5000人が避難!	-13
市民の生命と生活を守れ!	-14
だれもが力を合わせて助け合った	-16
悲しみを乗り越えて、明日に生きよう 合同慰霊祭	-18
公共施設の被害状況	-19
希望の明日へ歩み出す第一歩	-28
たくましく生きよう、未来を見つめて	-30
よみがえれ、笑顔! 希望! 夢!	-32

●よみがえれ にしのみや

「安全」「安心」そして、「希望」に満ちた 文教住宅都市をめざして	-20
被災市民を支援する住宅づくり 住宅復興3カ年計画	-22
未曾有の大震災被害の復興に向けて 平成7年度予算	-24
震災後実施された施策	-25
阪神・淡路大震災 その瞬間から現在に至るまで	-34
西宮の再生に向けて	-35

※表紙写真は崩壊した阪神高速道路
(本町付近、神戸新聞社提供)



阪神高速道路の倒壊に巻き込まれたトラック。散乱したジュースの缶やペットボトル。(神戸線 本町付近)

西宮浜を走る阪神高速道路湾岸線も大きな被害を受けた。



まだ目覚めには少し時間のある真冬の明け方、ある人は暗い空にせん光の走るのを見たといい、また、ある人は重く響く地鳴りの音を聞いたというほんのわずかの間に、世界でも未曾有の直下型地震が兵庫県南部を襲いました。20数秒間、震度7の激震が西宮市にも走り、多数の人命が失われ生活の営みにも大きな打撃を与えました。



倒壊して道路をふさいでしまった山陽新幹線高架。
今回の地震では信じられない光景があらこちらでみられた。



西宮浜や鳴尾浜など海に近い区域では液状化現象が起こり、大きな被害となった。



倒壊した阪急電車の線路沿いを歩く人々。阪急電鉄は夙川駅舎損壊、夙川～西宮北口間では高架橋部分が多数倒壊した。



市役所本庁舎は6～8階が使用不能になるなどの大きな被害となった。内部では至る所が損壊している。

国道171号線高架橋が阪急電車今津線の上に落下し、交通が寸断されるが、翌日18日にはいち早く復旧作業を開始。地震直後道路に残された車が、衝撃の大きさを物語っている。(下)

港湾施設も被害を受け、機能がストップした。西宮大橋は橋脚2本が損壊し、全面通行止め。西宮地区、甲子園地区埋立地のふ頭、護岸が破損、沈下した。



私たちのまちが崩れていく



西宮神社の石造りの鳥居が見るも無残に壊れ落ちた。石とうろうやこま犬、社務所も崩壊。

桜の名所として知られる夙川にかかる橋も崩壊。昨年は約2万人の市民が訪れたさくら祭も中止に…。



国指定重要文化財の西宮神社の大練塀がこんな状態に…。



上・中・下3つの池の間の堤が崩壊したニテコ池貯水池。



被害の大きかったJR西ノ宮駅北地区にある西福寺も庫裏（くり）が全壊し痛々しい姿に…。



広田神社の社殿が崩壊。西宮市内の神社仏閣は大きな被害を受けた。

夜が明け始めたまちには、もう見慣れた姿はありませんでした。多くの人たちが着の身着のまま道路や広場に飛び出し、ぼう然とたたずむ姿がみられました。しかし、倒壊した家屋から下敷きになった人たちを助け出している人々、出火した家屋に防火水槽からホースを引き消火している人々など現実への戦いがすでに始まっていたのです。



満池谷墓地では多くの墓石が倒れた。

「酒蔵館」や「たつみ蔵」が全壊してしまった白鹿記念酒造博物館。



通行するのに細心の注意が必要なため、協力して誘導し合うドライバーたち。き裂が入ったり、段差ができたり、陥没したりと、生活道路が至る所で被害を受けた。



地震は西宮の地場産業にも甚大な被害を与えた。昔ながらの情緒ある酒蔵地帯の建物の多くが壊れた。



商店街や市場といった生活の場も大きな被害を受けた。(香櫛園市場)



震災で倒壊した西宮地方卸売市場。



国道2号線に面したスーパーマーケット。上部はマンションになっている。(津門大塚町)

兵庫県南部 地震による 西宮市の被害

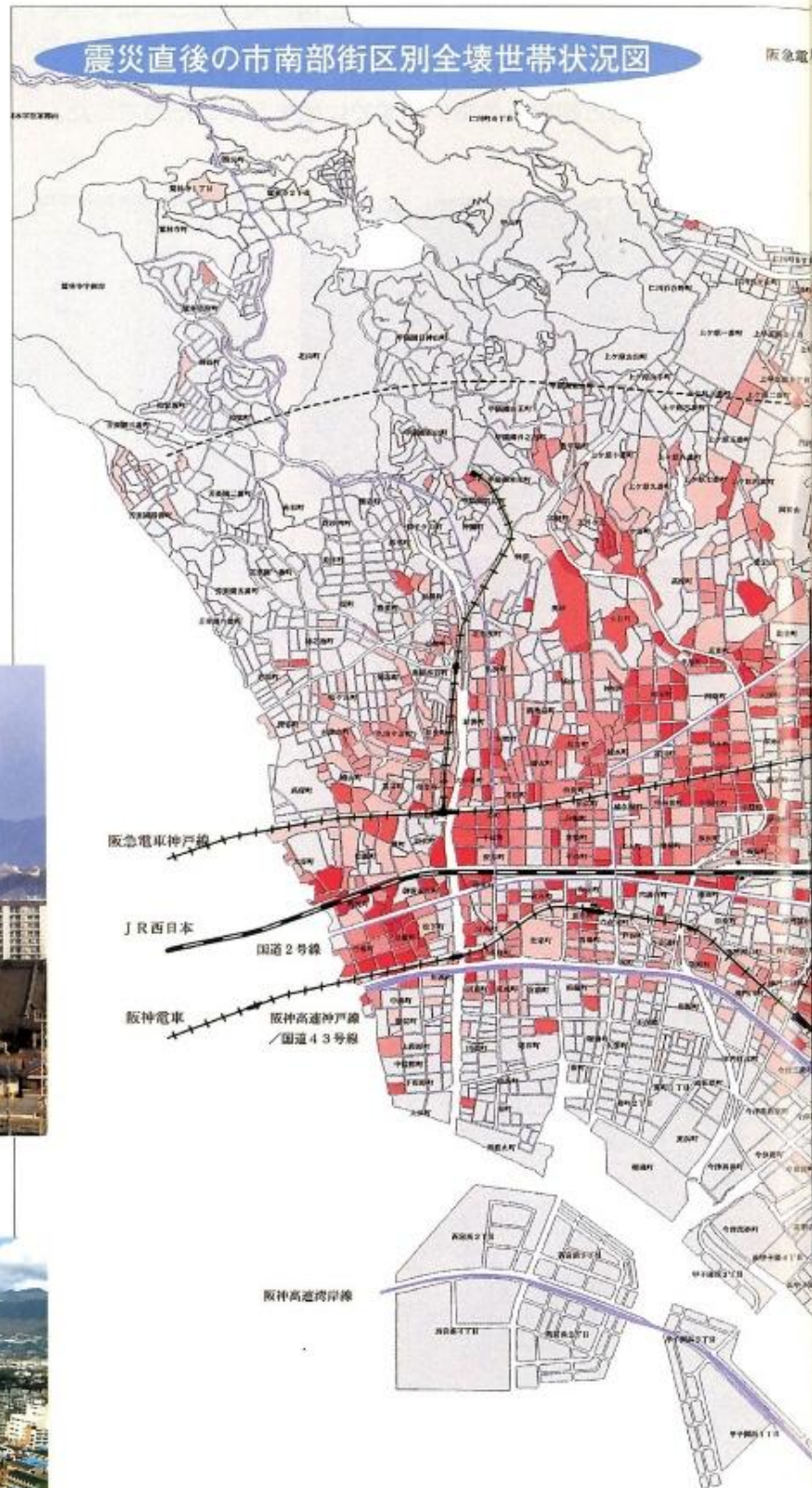
西宮市はもちろん、阪神・淡路地域は広い範囲にわたり壊滅的な打撃を受けました。マグニチュード7.2、震度7の激震が市内を北東に横断していった様子が、被災状況を記した地図を見るとよくわかります。



西宮市内で41件の火事が発生（JR西ノ宮駅北側）



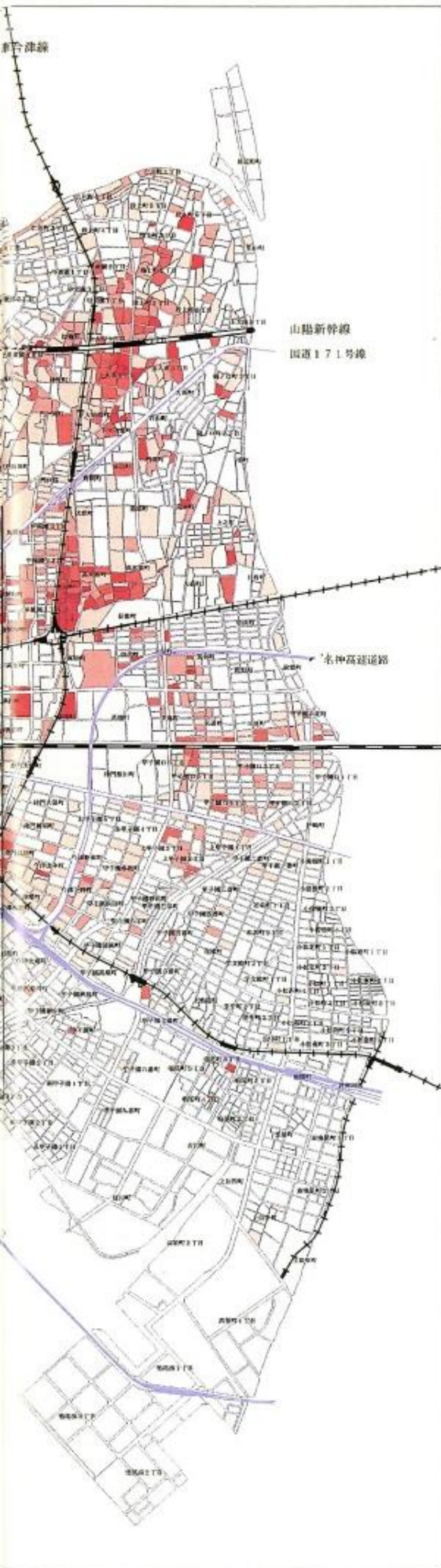
西宮市街地（市役所を望む）



街区を全壊率で色分け

■ 80～100%	171 街区
■ 60～80%	208 街区
■ 40～60%	360 街区
■ 20～40%	613 街区
□ 0～20%	2761 街区

★この図は全壊した世帯の占める割合を街区ごとに色分けしたもの（1月末現在）



地震概要

発生日時	平成7年1月17日（火） 午前5時46分
震源地	淡路島北部
震源の深さ	14.3キロメートル
地震の規模	マグニチュード7.2 震度7（激震）
地震の特徴	岩盤上での振動数が高く、極めて大きい上下方向の加速度を示す 地震動の大きい地域が限定されており、典型的な直下型地震

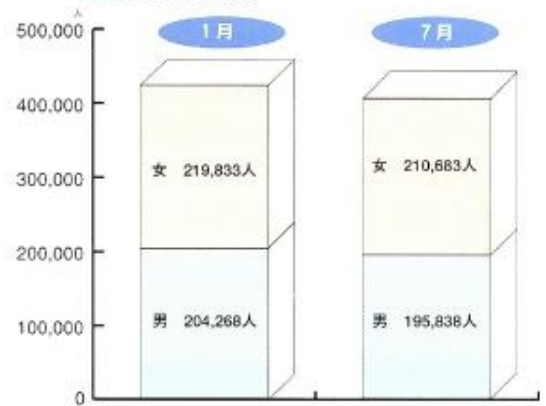
西宮市の被害

- 死亡者 1,088人（7/19現在）
- 倒壊家屋 59,869世帯
全壊32,593世帯・半壊27,276世帯（5/30現在）
- 避難者 1/19 最大44,351人・8/10現在 387人
- 避難所 1/20 最大194カ所・8/10現在 37カ所
- 火災発生 41件
- 市場の被害 全半壊した商店街 9 小売市場 19 卸売市場 2

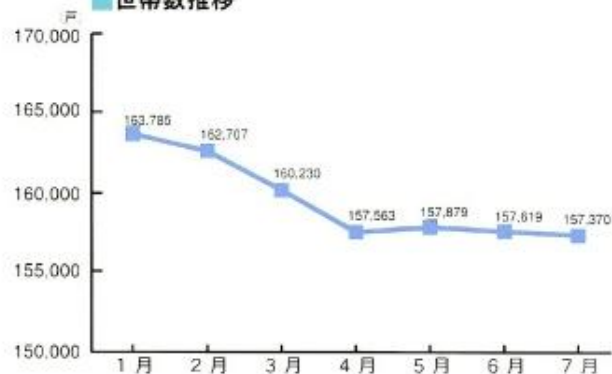
倒壊家屋

半壊 27,276 倒壊家屋 59,869世帯 全壊 32,593

西宮市の人口



世帯数推移



被害の大きかったまち

JR西宮駅北地区

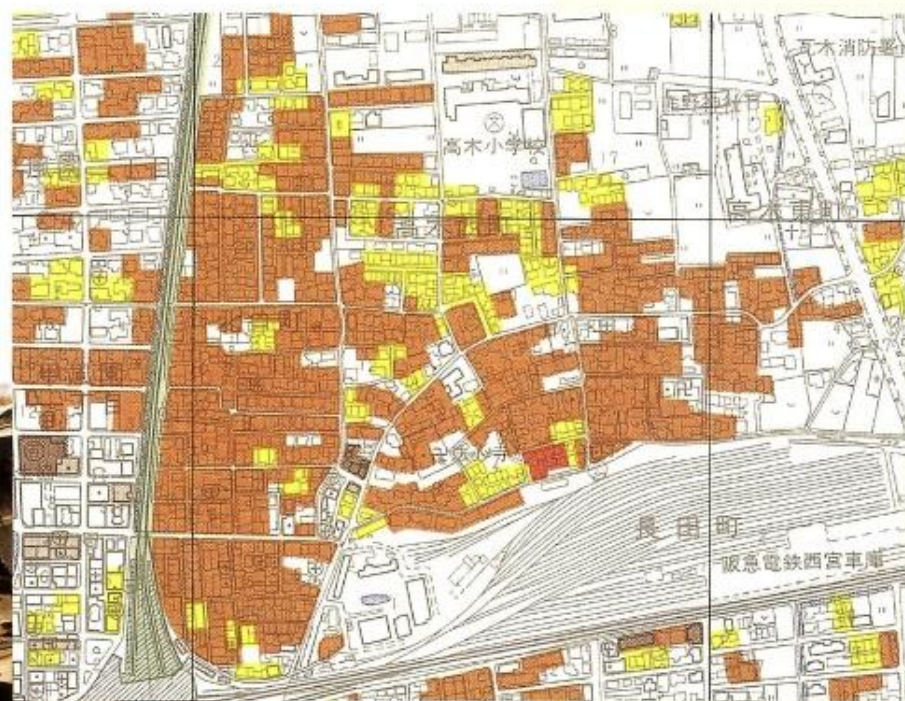
この地区は密集した住宅の被害が大きく、防災機能の優れた街づくりが必要です。復興の主眼を住宅および住環境改善に置き、密集住宅市街地整備促進や住宅地区改良などの事業が重点的に進められます。



多くの古い木造建築物が倒壊した。

阪急西宮北口駅北東地区

この地区は北口本通り商店街と住宅が密集した地域で、大きなダメージを受けました。今後、土地区画整理、市街地再開発、住宅市街地総合整備の各事業が進められていきます。



大きな被害を受けた北口本通り。

★災害の区分

- 倒壊及び大きな破損
- 倒壊及び大きな破損で、3階以上の高層建物
- 軽微な破損
- 軽微な破損で、3階以上の高層建物

今回の大震災で被害が集中し、都市機能の再生や災害に強いまちづくりにおいて重要な地区について従来からの取組みに加えて、土地区画整理事業や市街地再開発事業などの都市計画事業が進められます。

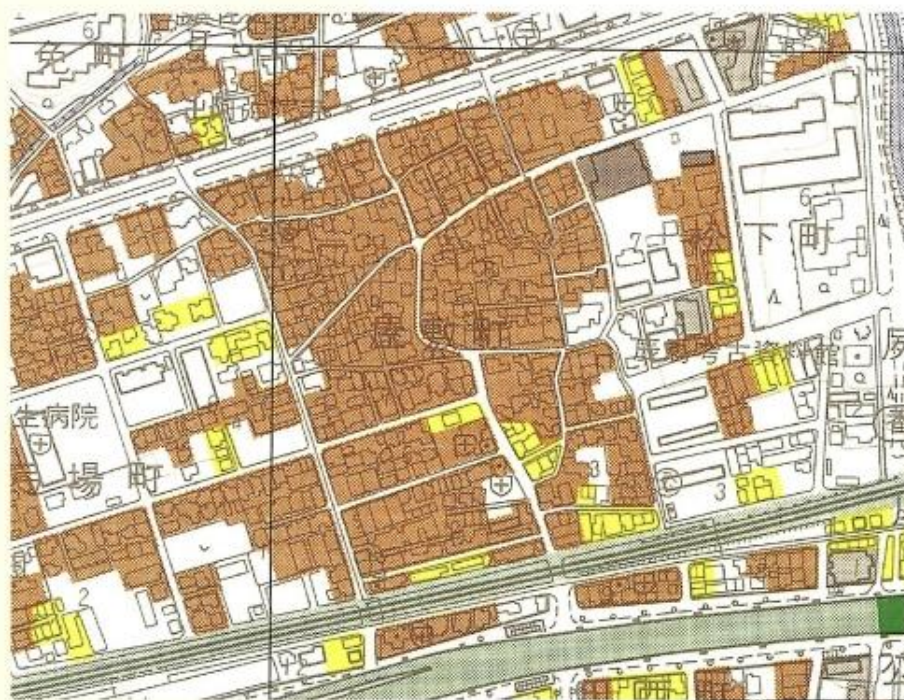


阪神西宮駅南地区

この地区は阪神電車高架工事と合わせ、壊滅的打撃を受けた中央商店街を中心に市街地再開発事業が進められます。



西宮中央商店街は壊滅的な被害を受け、アーケードだけが悲しく残った。



森具地区

この地区は古い住宅地や商店、市場などが入り組み、倒壊家屋のもっとも多かった地区です。土地区画整理、密集住宅市街地整備促進事業が行われ、新しいまちづくりが進められます。



★4地区の各被災地図は、「国土地理院平成7年兵庫県南部地震災害現況図」より。

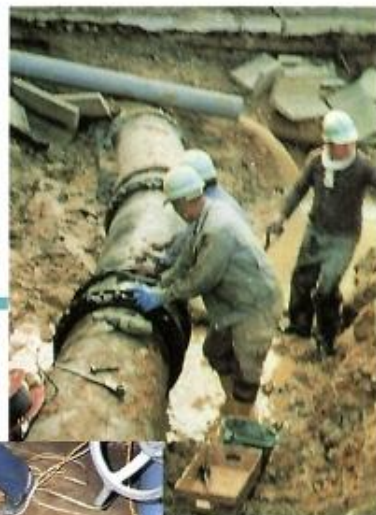
多くの尊い命が失われた森具地区。香榎園市場は全壊した。

寸断されたライフライン

水道の被害と復旧

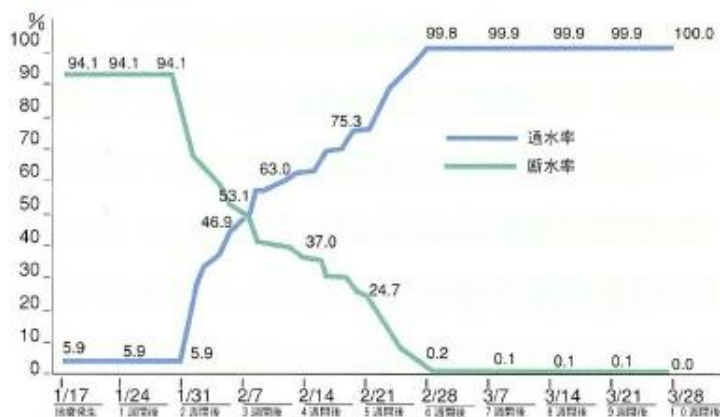
ニテコ池・北山貯水池、鯨池・越水鳴尾など6浄水場、甲子園・東山台配水所のほか、配水管は北部23・南部869カ所、給水管は北部32・南部4788カ所に被害が及びました。そのため、応急給水には自衛隊や他都市、民間団体などから延べ9920人が従事、動員された給水

車も延べ5600台になりました。また、西宮東高校グラウンド地下に設置した耐震型貯水槽(100立方メートル)からも給水を行いました。2月9日に通水率が50%を超え、2月28日は99.8%まで回復するなど全国の皆さんの支援を得てわずか42日間で仮復旧がほぼ完了しました。



折れ曲がった水道管。

通水率推移



武庫川浄水場でダイバーによる調査。

ガスの被害と復旧

地震によって都市ガスの供給が全域停止された西宮市。大阪ガスは兵庫県南部一帯で最大約85万7400戸を停止しました。真冬でもあり、暖房や調理ができないことは深刻でした。復旧作業には大阪ガスグループで約6000名、全国155のガス事業者と日本ガス協会の応援約3700名、総計約9700名という大規模な体制で総力を挙げて当たりました。復旧までは、カセットコンロなど臨時の代替エネルギーを供給。

作業を困難にしたのはガス管に浸入した水や土砂、倒壊家屋のがれき、そして交通渋滞でした。しかし、こうした障害を乗り越えて、4月11日には、ほぼ復旧作業が完了しました。



昼夜を徹しての復旧作業が続いた。全国都道府県から、多くの応援の手が差しのべられた。

地震発生後、多くの地域で生活に欠かせない電気、水道、ガスが止まり、安否を知らせたい電話も不通となりました。水道、電気、ガスは全市でストップ。頼みの交通もかろうじて翌18日に阪急、阪神、翌々19日にJRが西宮市に一部アクセス、運転が再開されました。

電気・電話の被害と復旧

電気は地震発生直後、兵庫県南東部などを中心に約260万軒が停電しました。しかし、1月17日午前7時30分には神戸市、西宮市など100万軒にまで減少。東北・東京・中部・北陸・中国・四国・九州電力の応援を受け、1月23日午後3時には送電ができる世帯へ供給がほぼ可能、電気の明かりが戻りました。電話は

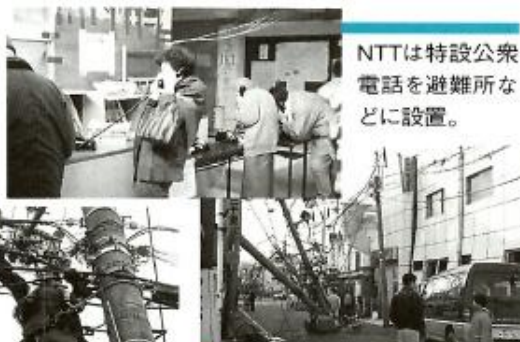
西宮市内だけでも約30キロメートルのケーブル、700本の電柱、550カ所のマンホールが被災し3万4000回線が故障しました。しかし、交換機は正常に作動。特設公衆電話は200カ所790台が設置され、非常時の市民の連絡の拠点となりました。そして1月31日、サービスの回復が完了しました。

西宮市電話被災状況など一覧表

電話回線の故障状況	故障件数	34,000回線	
公衆電話の被災状況	故障数	設置の用数	電話機の故障
	2400台	210台	350台
特設公衆電話の設置数	設置力用数	設置台数 (1月31日)	
	200カ所	790台	
ファクスの設置数	設置力用数	設置台数 (1月31日)	
	60カ所	90台	
故障回線の復旧状況	回復回線 (1月31日)	15,000回線	



地震後の停電は懸命な復旧作業によって23日にはほぼ復旧した。

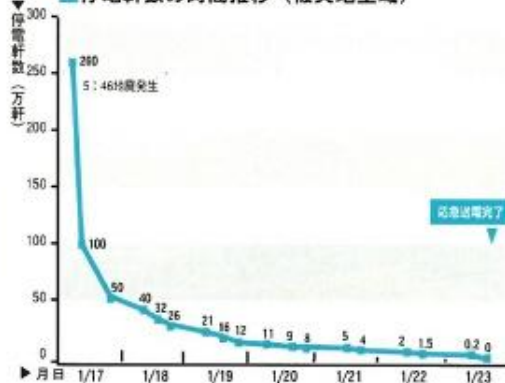


NTTは特設公衆電話を避難所などに設置。

懸命に行われる電話の復旧工事。

多くの場所で電柱が倒れるなど、通信設備が被害を受けた。

停電軒数の時間推移 (被災地全域)



鉄道の被害と復旧

国道や高速道路など幹線道路が打撃を受け、地震発生直後は連日連夜、大渋滞が続きました。頼みの鉄道は、1月17日当日は各社運転を停止。しかし、18日には阪急電鉄が梅田駅～西宮北口駅間で、阪神電鉄が梅田駅～甲子園駅間で運転再開。19日にはJRが大阪方面で甲子園口駅まで再開されました。これにより、被害の少ない大阪などに必要な物資を買い出しに行くことができました。

市内の被害と復旧データ

JR	●新幹線	高架橋と六甲トンネルを損傷
	●在来線	橋りょうや、電線・電柱を多数損傷
	◆4月1日在来線開通	
阪急	●本線	多数の高架橋部分が倒壊、夙川駅舎を損傷
	●今津線	軌道・電気施設多数が損傷、盛土が崩壊など
	●甲子園線	線路陥没、法面崩壊など
	◆6月12日全線開通	
阪神	●本線	西宮変電所全壊、鉄柱倒壊、香櫨園駅付近の盛土一部崩壊、洲門川の橋脚ひび割れ、電線など多数損傷
	◆6月26日全線開通	



駅舎が損壊した阪急夙川駅。



崩れ落ちた阪急電車の高架橋。



損壊した新幹線の橋脚部分には大きな鉄骨が組まれ、急ピッチで復旧作業が進められた。

必死の救出・ 救援が 不眠不休で 続く！

消防局では、地震発生直後の午前6時13分に指揮本部を設置、市内各署に「火災鎮圧と人命救助を最優先し最善の行動をとる」よう指示を出しました。幸い119番31回線は無事で、通報が殺到。全車両を動員して消火・救援活動に当たりました。消防局で対応できないところは消防団が大活躍。また、被災現場では、隣近所が力を合わせ、大人も子供も救助活動に参加するなど、みんなができることに全力を傾け、被害の拡大を食い止めました。



地震後に発生した火災。昼夜関係なく消火・救出活動が続く。



自衛隊による救出作業。倒壊した家屋の下から1人でも多くの人を助けようと全力が尽くされた。



燃え盛る火に懸命に立ち向かう消防隊員。地震による火災は41件。焼損面積は7784平方メートル。



次々に入る119番出動の要請。



市内の病院も多大な被害を受けたため、緊急に手術の必要な患者などは、ヘリコプターで他市の病院へ移送した。



地震直後から続々と避難する人であふれた中央体育館。続く余震と寒さに震えながら眠れぬ夜を過ごした。

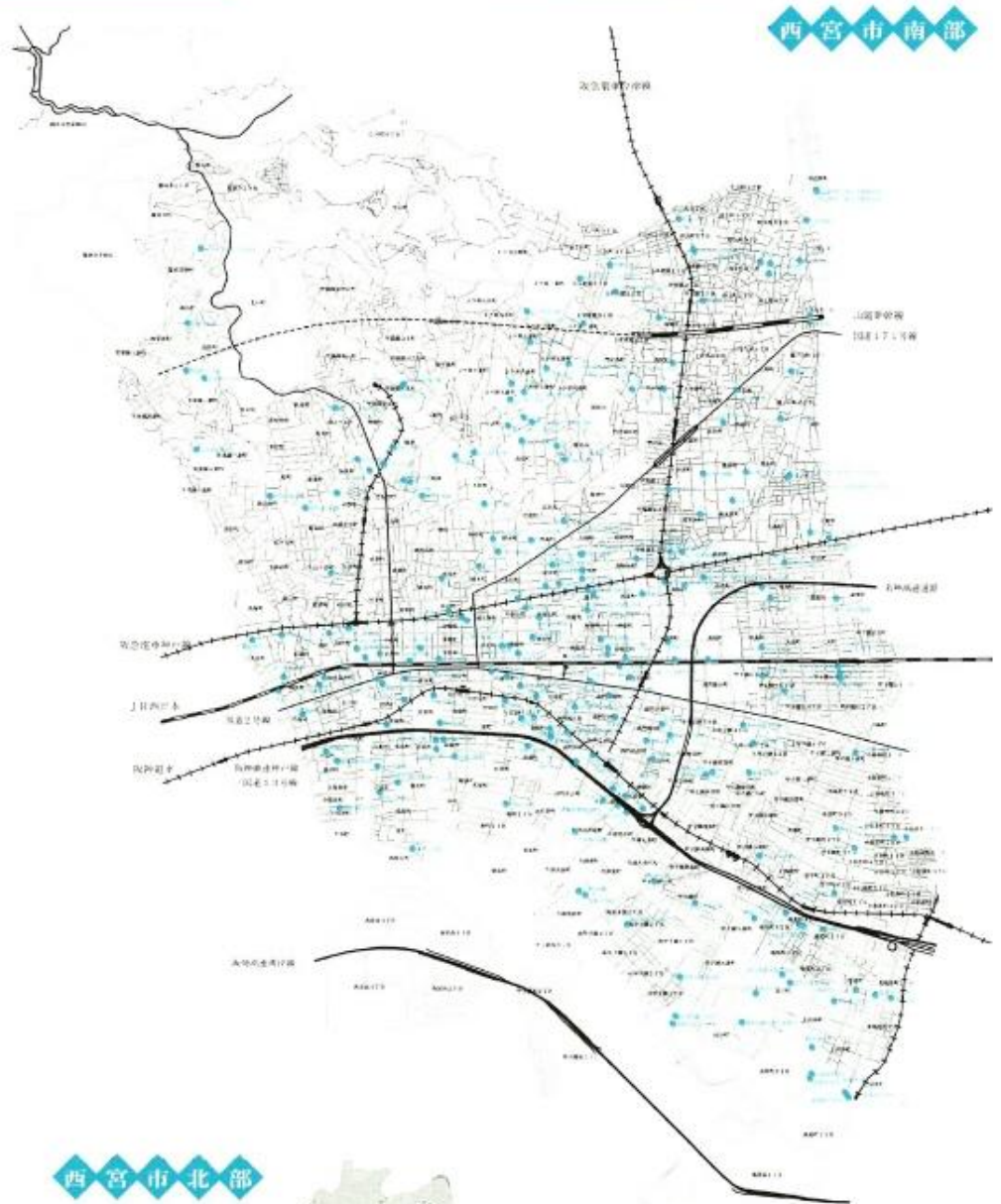
市内194カ所の避難所に、最大4万5000人が避難！

5万9869世帯の家屋が全半壊したことで、1月18日には3万9888人の市民が市内172カ所の避難所に避難。翌19日には避難者が4万4351人に膨れ上がり、20日には194カ所の避難所が開設されました。避難者が多かったのは中央体育館や香櫨園小学校、大社小学校、樋ノ口小学校、甲東小学校などで最大1500人～2000人にも上りました。多くの市民は、寒さ、衣服、食料、飲料水の不安を抱えつつも、お互い協力し合って避難所生活を送りました。



自衛隊によって設置された香櫨園小学校の野営風呂。水やガスのない生活を強いられた人々にとって、お風呂は何よりもありがたい。

避難所分布地図



市民の生命と生活を守れ！



市役所に続々と集められた救援物資。



建物の損壊度を調査する危険度判定。



まずは飲料水と食料の確保が重要であった。



自衛隊ヘリコプターで運ばれた救援物資をリレーでトラックに移し換え、各避難所などに届けた。

市民の生命と生活を守るため、「救急・救助」「物資の収集と配給」「医療・保健」「避難所開設」など多くの課題に迅速に対応していかなければなりません。1月17日、指定避難所と緊急一時避難所104カ所にはいち早く職員が走り、午前7時には開放。同時刻には約100人の職員が市庁舎に登庁、7時5分に災害対策本部を設置しました。市庁舎は、6階以上が使用不能になるなか、通信機器を移すなどし、総力を挙げての救援活動を開始。食料や飲料水、毛布の手配を行いました。



緊急車や復旧作業車の進路を確保するため、連日交通規制が敷かれた。



19日からは家庭ごみの収集を再開。膨大な量のごみ処理が続いた。



多くの給水車が市内を回り、人々の飲料水・生活用水を供給した。



全国から届いたたくさんの救援物資。ボランティアの人たちの力を借りながら、仕分け、配布が進められた。(阪急西宮スタジアム)



届いた救援物資の配分に追われる職員、ボランティア。



自衛隊をはじめとする支援部隊との連絡により、救援活動が行われた。



市庁舎内で行われた西宮市震災復興本部の会議。復興に向けての話合いが連日行われた。

だれもが 力を合わせて 助け合った

「自衛隊、警察、 自治体の頼もしい応援活動」



フランスからの応援。家屋の下敷きになった人の、捜索犬による救出活動が行われた。



海外からの応援に対して、綿密な打ち合わせを実施。

西宮市は災害対策本部を設置し、人命救助を最優先に消防団、自衛隊、警察、各自治体の協力を得て被災者の救急・救助に取り組みました。自衛隊からは1月17日から2月6日までに延べ1万416人が来西（2月7日から4月26日までは本市をはじめ、芦屋市、神戸市への応援総数延べ1万210人）。救助のみならず遺体搬送、給水・給食、入浴、医療、家屋撤去などに従事しました。水道の応援では応急の給水と復旧のため342団体延べ2万1177人が、住宅の危険度判定や被災者証明書の発行などの応援で192団体延べ1万2764人が、各市町などから来西しました。



警察からの応援を得て、仁川の土砂崩れ現場や倒壊したビル現場での救出活動が続く。



自衛隊がれき撤去作業終了式。馬場市長より感謝の意が述べられた。



小里地震対策担当大臣が現地視察のため、西宮市を訪問。



自衛隊は救援活動から、がれき撤去作業に至るまで、長期にわたりさまざまな応援活動を実施。右の写真は自衛隊によって設置された野営風呂。（香檀園小学校）



全国自治体などからも多方面にわたる応援を得た。消防車、救急車、給水車、水道・ガス・電気・電話の復旧作業車など他府県ナンバーの車が続々到着。

「ひとりひとりが救援隊員」



温かい食べ物は、心までも温めてくれる。善意による炊き出しがいろいろな形で励ましてくれた。



井筒部屋の寺尾開らによる炊き出しは、被災した皆さんに心から歓迎された。



井戸水のある個人の家で水をもらう人々。人と人の助け合いの精神が不便な暮らしを支えた。



震災直後は、まさに手と足で緊急物資が運び込まれた。

激励 メッセージ

全国各地から西宮市に向けて数多くの救援物資が届けられました。約20万個にも及ぶ「ゆうパック」には送ってくれた人たちの手紙が入られていました。物資を仕分けたため、手紙は被災者の方には直接届けられませんでした。 「がんばれ西宮/愛のメッセージ」と題した文集として西宮市が発行し、避難所の方や学校の子供たちに読んでいただいています。小さな子供からお年寄りまで全国各地からいただいた心温まる激励メッセージは、今も宮っ子たちを支えています。



「心強いボランティアパワー」



2月1日に結成された西宮ボランティアネットワーク。学生を中心とした若い力に助けられた。



避難所や被災世帯へ届けるため、救援物資を仕分けするボランティアの人たち。

住宅提供などのボランティア件数
西宮市民受入分 (3月20日現在)



NVN概要

と 活動状況

■西宮ボランティアネットワーク (NVN)

ボーイスカウト、YMCAなどのボランティアと西宮市災害対策本部との連携によって、ボランティアの方々と行政とのパイプ役として2月1日に発足した団体です。NVNは4月末日で登録者数は2万1700人、延べ11万7000人が活動に従事しました。救援物資の仕分け・配布を始め、避難所のお世話、医薬品・日用品・食糧の配送などに携わり、現在も仮設住宅のお世話や市内クリーンキャンペーンなどの活動を続けています。

悲しみを乗り越えて、
明日に生きよう

合同慰霊祭



わがまち西宮の再生と復興を誓う馬場順三市長。



西宮市犠牲者の碑に献花される皇太子ご夫妻。

2月26日県立総合体育館で行われた「兵庫県南部地震西宮市犠牲者合同慰霊祭」。

ご遺族や市民の方など約3450人が参列し、西宮市域で亡くなられた995人の方々のごめい福を祈りました。



兵庫県南部地震 西宮市犠牲者之碑



追悼の言葉を読み上げる児童代表・荒井誠君。



ケーブルテレビでは最新災害情報を24時間きめ細かく提供。右の写真は広報課が震災直後から発行した「地震災害広報」。



情報を迅速、
的確に発信！

市広報活動

テレホンガイドでは最新災害情報を毎日入力。3月末までで、計1万5708件の利用があり、FAXでの情報取り出しは1万2247件にもものぼった。

『公共施設の被害状況』

西宮市内の道路、河川、公園、上下水道、公営住宅、廃棄物処理施設、文教施設、そして市役所庁舎と多大な被害を受けました。その復旧費は推計で約2000億円。また、被害の少なかった施設も避難所となり、8月の時点でなお使用できないものがあります。

各公共施設一覽

●図書館 (H7.8.15現在)

中央図書館、北部図書館、段上分室、
浜甲子園分室、越木岩分室、
上ヶ原分室 全て使用可能

●スポーツ施設 (H7.8.16現在)

施設名	使用可	使用不可 (理由)
西宮スポーツセンター	体育室	プール
今津体育館	体育室等の一部	
鳴尾体育館	体育室等の一部	
甲武体育館	体育室等の一部	
北夙川体育館	体育室等の一部	
中央運動公園		○

●公民館 (H7.8.18現在)

施設名	使用可	使用不可 (理由)
中央公民館		○
山口公民館	○	
大社公民館		改装工事中
甲東公民館		改装工事中
塩瀬公民館	○	
夙川公民館		○
浜船公民館		○
用海公民館	○	
段上公民館		○
神原公民館	○	
越木岩公民館	○	
高木公民館		○
上ヶ原公民館		○
鳴尾公民館	○	
鳴尾東公民館	○	
南甲子園公民館	○	
今津公民館	○ (一部)	
上甲子園公民館	○	
春風公民館	○ (一部)	
学文公民館	○	
瓦木公民館	○	
高須公民館	○	
若竹公民館		○

●公園 (H7.8.1現在)

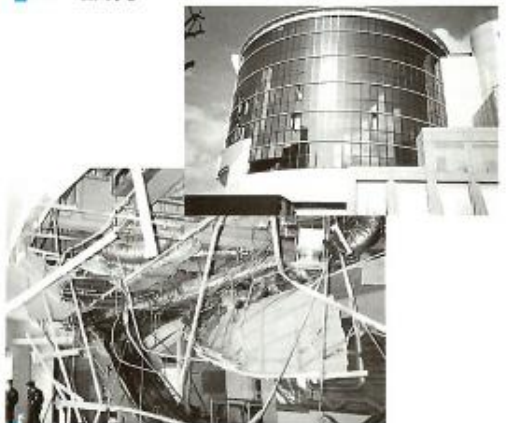
施設名	使用可	使用不可 (理由)
流通東公園	野球場、庭球場	体育館 (近日再開、日程未定)
高座山公園	野球場	
鳴尾浜臨海公園	海釣り広場	野球場、庭球場
桶之池公園	プール	庭球場
リノ鳴尾浜	○	
名神高架下1~8号児童遊園		○
阪急高架下1~5号児童遊園		○
門戸高架下、東及び西児童遊園		○
高座北公園		○
新池北公園		○
高塚公園		○
苔楽園みはらし公園		○
宝生ヶ丘公園		○

●市民館等 (H7.8.13現在)

施設名	使用可	使用不可 (理由)
網引市民館	○	
市庭市民館		○ (9月再開)
今津南市民館	○	
上ヶ原市民館	○	
大徳市民館	○	
柏堂市民館	○	
神原市民館	○	
北甲子園口市民館		○
苔楽園市民館	○	
甲福園市民館		○ (11月再開)
甲子園口市民館	○	
香榎園市民館	○	
夙川西市民館		○
夙東市民館	○	
中市市民館		○
生瀬市民館	○	
平木市民館		○
安井市民館		○
八ッ松市民館	○	
六軒市民館	○	
上甲子園センター	○	
瓦林公園センター	○	
北瓦木センター	○	
甲東センター		工事中
小松センター	○	
高木センター		○
段上センター	○	
鳴尾センター	○	
鳴尾中央センター	○	
浜甲子園センター	○	
広田山荘		改装工事中 (11月再開予定)



上は市庁舎6~8階が使用不能となったため、市庁舎横に建てられた仮庁舎。下は市庁舎1階ロビー部分。



被災したフレントホール。外観に比して内部の損傷がひどい。ホールロビーの天井部分が完全に落ちてしまっている。



比較的被害の少なかった中央図書館。しかし、前の歩道部分が損壊。内部の書架が倒れ、本が散乱した。2月18日から再開。

震災復興計画

「安全」「安心」そして、「希望」に満ちた文教住



あらし

西宮市は6月9日に「西宮市震災復興計画」を策定。「安心して暮らせる、心かようまちづくり」「災害に強い、安全なまちづくり」「活力を生む産業のまちづくり」「魅力あふれる環境、文化、地域社会づくり」の4つを目標として、次の時代につながる文教住宅都市の実現に向けて取り組みを進めていきます。目標年次は平成17年（2005年）です。

●=今後三か年で重点的に進められる事業
○=上記以外の事業

市民生活の安定、支援

(1) 住宅の確保・再建支援

- 公的賃貸住宅の建設
●災害公営住宅等の確保 ●特定優良賃貸住宅の供給
民間住宅の復興支援
●個人住宅の再建支援 ●区分所有マンションの建替支援
●複数権利者による協調・共同建て替えの推進 ●賃貸住宅の建設促進と入居支援 ○学生用居住施設の復旧支援●開発指導要綱等の緩和 ●文教住宅都市復興住宅メッセ（仮称）の開催
まちづくりと連携した住宅の整備
○面的整備事業と連携した住宅、住環境の整備 ●住民参加の住まいづくり・まちづくりの推進（コンサルタント派遣、助成など）●新市街地における住宅供給の促進
高齢化等に対応した住宅の整備
●高齢者等に配慮した住宅・住環境の整備、住宅施策と福祉施策の連携強化

(2) 福祉・保健・医療の充実

- 地域福祉活動の推進
●コミュニティ活動・ボランティア活動の促進と高齢者等の見守り体制の強化
在宅福祉サービスの充実
●ホームヘルプサービス、ショートステイ、デイサービス等の拡充・強化
特別養護老人ホーム等の整備
●特別養護老人ホームの整備促進
福祉・保健・医療のネットワーク化
○ケアマネジメントシステムの確立と情報通信体制の整備
メンタルケアの実施
●専門医等との連携によるメンタルケアの実施
健康の保持・増進
●巡回健康診査・健康相談会等の実施
高齢者や障害者等にやさしいまちづくり（福祉のまちづくりの推進）
○高齢者等が利用しやすい都市施設や公共建築物等の整備
災害時の救急医療体制の強化
○中央病院の救急医療機能の充実と、病院間の情報通信体制の整備など
保健センターの整備
●備蓄機能や救護センター機能を備えた保健センターの整備

(3) 防災の体制づくり

- 防災体制の見直し
●地域防災計画の見直しと災害の規模に対応した地域防災体制の確立 ●他市等と連携した広域的な防災体制の確立 ○衛星通信システムの充実 ●防災無線など防災通信の整備
●計測機器の設置など観測体制の強化
消防力の充実・強化
●緊急情報システムの導入と消防車両の整備等
安全、防災意識の高揚
●震災記録の作成 ●災害の種類、規模に応じた防災訓練の実施 ●自主防災組織や自衛消防隊の育成、強化 ●学校教育等様々な場における防災教育の推進

安全で安心できるまちづくり

(1) 都市の防災機能の強化

- 防災センターの建設
○啓発・教育・訓練等の学習体験と備蓄機能を備えた施設の建設
地域防災拠点の整備
○学校や公園等を防災拠点として、貯水槽や井戸、ヘリポート等防災施設を整備
地盤条件等の調査
●活断層などを含めた地盤調査と情報提供 ●液状化現象の調査と情報提供 ●災害時における井戸の活用を図るための井戸分布等の調査

(2) 災害に強い建築物等の整備、誘導

- 建築物等の耐震性の向上
○公共施設の耐震性の強化 ○震災に強いまちづくり条例等による建築物の耐震性の向上の誘導 ●道路・鉄道の高架構造物の耐震性の点検、強化
雨水、太陽熱等の利用促進
○ライフラインが途絶しても自給できる雨水、太陽熱等の利用促進
防火・準防火地域の見直し
●防火・準防火地域の見直しによる都市の防災構造化急傾斜地等の防災対策
●危険宅地防災事業の支援 ●急傾斜地崩壊対策事業の支援 ●既成宅地等防災工事資金融資の実施 ●砂防、地すべり対策の促進



西宮浜地区まちづくりのイメージ。

産業の振興

(1) 地域産業の再生・振興

- 商店街・市場に対する復旧・復興支援
●仮設共同店舗設置に対する補助 ●共同施設等の復旧補助
●卸売市場の整備 ○協業化、共同化、業種転換への支援
事業所に対する復旧・復興支援
●中小企業融資制度の特例措置 ●産業復興支援・診断相談事業 ○工場等制限法の規制緩和
雇用の安定
●国、県、関係機関と連携した情報の収集と提供 ●震災に係る各種労働相談の実施

(2) 新しい産業活力づくり

- 地域の特性を生かした新たな産業の振興
○西宮北口地区における芸術文化ゾーン形成と、阪神西宮駅から酒蔵地帯における生活文化ゾーン形成の検討
マルチメディアを活用した商工業の振興
○パソコン通信やCATV等の活用
中小企業の集団化移転
○中小企業の集団化移転の促進とその用地確保



壊滅的な打撃を受けた卸売市場。

宅都市をめざして



3月定例会市議会で平成7年度の行政方針を表明する馬場市長。

魅力ある地域社会の創出

(1) 支え合う地域コミュニティの形成

コミュニティの再生

- 地域集会施設の復旧 ●コミュニティ協会事業の再構築
- ボランティア活動の展開
- ボランティア制度の整備 ●ボランティア活動の支援

(2) 教育活動の充実

学校の復旧

- 学校の復旧 ●校庭開放など子どもの遊び場の確保
- 子どもへの支援
- 心のケア ●防災教育、ボランティア教育の実施

(3) 文化・スポーツの振興

社会教育施設等の復旧

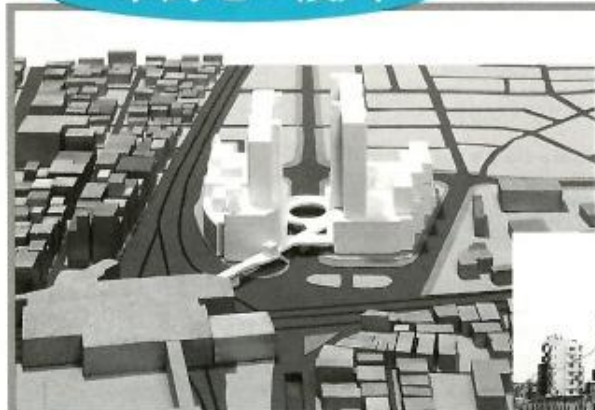
- 社会教育施設の復旧 ●文化財の復旧・修理
- 文化施設の整備
- 市民会館の復旧 ○生涯学習センター機能の整備 ○女性センターの整備 ●文化・スポーツ活動の振興
- 「カレッジタウン西宮」事業の推進
- 被災した大学の復旧・復興のため工場等制限法の規制緩和を国へ要望 ○宿泊施設を併設した学生センターの整備

(4) コミュニケーション環境づくり

地域情報システムの高度化と災害時の情報提供手段としての活用

- 「情報倉庫にしのみや」のインターネットへの接続 ○CATVの機能拡張 ●コミュニティFMの活用

市街地の復興



西宮北口駅北東地区の市街地再開発事業イメージ。



環境と調和した、美しいまちづくり

(1) 環境との共生

循環型都市づくりの促進

- 資源のリサイクル・省資源化、自然エネルギーの利用促進等
- 環境学習、環境意識の啓発
- 市民の自主的な環境学習のための場や機会の提供

(2) うるおいのある都市景観の形成

- 被災した都市景観形成建築物など景観資源の修復
- 景観デザイン誘導による街並み景観の形成(西宮市景観条例の活用)
- 水と緑を生かした地域魅力の創出

(3) 港湾の整備

災害時の緊急輸送路の確保とウォーターフロントを適用したまちづくり

- 防潮堤、西宮大橋等港湾機能の早期回復 ●西宮浜理立地、甲子園浜理立地での耐震強化岸壁の整備 ●都市開発用地等の確保(鳴尾地区船溜まりの理立) ○西宮沖地区理立計画の促進

(4) 水と緑のまちづくり

水と緑のネットワークの強化

- 緑地軸の形成 ○県立広域防災拠点公園の誘致 ○地域防災公園の整備
- コミュニティ防災公園の整備 ○震災復興記念公園(メモリアルパーク)の建設
- 花と緑のまちづくり
- 地域と防災公園を結ぶ遊歩道の緑化 ○緑化重点地域の指定 ●市、市民、事業者が役割を分担して進める都市緑化(生垣助成など) ●学校を中心とした公共施設緑地の推進
- 緑地の保全
- 自然緑地の保全 ○生産緑地の適正な管理

(5) ライフラインネットワークの整備

災害に強いライフラインの整備

- 水道、ガス等の施設の耐震化、耐震つぎ手への切り替え ○自律、分節型ネットワーク化の促進 ○広域的なバックアップ体制の構築 ○処理場、ポンプ場のネットワーク化の推進

(1) 市街地の面的復興整備

面的な都市計画事業の実施

- 土地区画整理事業(森貝、西宮北口駅北東、西宮北口駅南、段上、甲東瓦木地区) ●市街地再開発事業(阪神西宮駅南、西宮北口駅北東、西宮北口駅南、西宮北口駅南西第一、六湛寺東地区)
- 住宅・住環境の一体的整備・促進
- 密集住宅市街地整備促進事業(JR西宮駅北、森貝地区) ●住宅市街地総合整備事業(西宮北口駅北東地区) ●住宅地区改良事業(JR西宮駅北地区)

地域復興まちづくりの支援

- まちづくり助成 ●コンサルタントの派遣等

(2) 道路交通のネットワーク化等

広域的道路網の整備

- 国道176号の拡幅整備の促進 ○山麓バイパスの整備 ○南北高規格道路の整備 ●阪神高速北神戸線の整備促進 ○臨海理立地のアクセス整備

重点街路の整備

- 鳴尾御影西線、建石線、山手線、山手幹線、甲子園段上線 ○今津西線、西福河原線、武庫川広田線、大浜老松線

区画道路の整備

- 日常の生活道路や災害時における避難路として整備

鉄道の高架化

- 県事業による阪神本線(甲子園~武庫川)連続立体交差事業の推進

住宅

復興3ヶ年計画

の
あらし

被災市民を支援する住宅づくり

西宮市震災復興計画に基づき、倒壊損失した多くの住宅を回復し、文教住宅都市にふさわしいまちづくりと環境整備を進めるために、7月19日に「西宮市住宅復興3カ年計画」(案)をまとめました。この計画は、災害に強い住宅建築を促進または供給し魅力的な住宅地を作っていくというもので、21世紀をめざした総合的な視野に立って策定された「西宮市住宅基本計画」に沿って事業が進められていきます。

住宅復興の基本的な考え方

西宮市震災復興計画に基づき、震災により失われた大量の住宅を早期に回復し、将来に向けて、良質な住宅の供給と魅力ある住宅地の形成を進める。

併せて、災害に強い住宅の整備誘導を図り、強靱でしなやかな「文教住宅都市・西宮」の復興を図る。

なお、この計画は、兵庫県が策定する「ひょう

ご住宅復興3カ年計画」との整合を図るとともに、21世紀をめざした総合的、長期的な視野に立った「西宮市住宅基本計画」の主旨をとりいれながら推進するものとする。



住宅供給の目標

計画期間

平成7年度から平成9年度までの3カ年とする。

供給目標

計画期間中の供給目標量は、着工ベースで概ね22000戸とする。

住宅種別	建設計画戸数
災害復興公営住宅	2,500 (11.4%) ※
再開発系住宅	600 (2.7%)
災害復興準公営住宅 (特定優良賃貸住宅)	3,300 (15.0%) ※
公団・公社住宅	4,400 (20.0%)
公的住宅計	10,800 (49.1%)
民間住宅	11,200 (50.9%)
総計	22,000 (100.0%)

※印は、兵庫県供給分を含む



公的住宅の供給

1. 災害復興公営住宅

建設計画戸数 2,500戸
うち市供給分1,700戸

2. 再開発系住宅

対象地域 西宮北口駅北東地区、森具地区、JR西ノ宮駅北地区
建設計画戸数 600戸 (地区外を含む)

3. 災害復興準公営住宅 (特定優良賃貸住宅)

建設計画戸数 3,300戸
うち市供給分1,300戸

4. 住宅・都市整備公団、兵庫県住宅供給 公社による公的住宅

建設計画戸数 4,400戸



災害復興公営住宅 (青木町)

民間住宅の復興支援

1. 個人住宅の再建支援

個人住宅資金融資制度の特例
住宅整備資金融資制度の特例
(平成7年3月実施済)

2. 被災マンションの再建支援

優良建築物等整備事業の活用
総合設計制度の活用
建替・修繕のための低利融資
コンサルタントの派遣等
「市民生活環境を守る条例」の改正による規制緩和

3. 民間住宅の協調・共同建替の推進

優良建築物等整備事業の活用
建替のための低利融資
コンサルタントの派遣等

4. 民間賃貸住宅の再建支援と入居支援

民間賃貸住宅再建支援制度
民間賃貸住宅家賃補助制度
被災学生用住宅再建支援

5. 民間事業者による住宅供給の促進

開発指導要綱等の緩和

6. 文教住宅都市・復興住宅メッセ（仮称）の開催

復興住宅メッセ

7. まちづくりコンサルタント派遣制度等の創設

まちづくり助成制度の拡充
優良再開発等支援制度

8. 宅地等の復興推進

既成宅地等防災工事資金融資制度
急傾斜地崩壊対策事業の支援

9. 阪神・淡路大震災復興基金による復興支援（県下）

阪神・淡路大震災復興基金事業

新市街地等における住宅供給促進

西宮浜や名塩ニュータウンなどにおける住宅供給の促進

人にやさしいすまいづくり

1. 高齢者や障害者にやさしいすまいづくり

住宅改造等助成制度の拡充
シルバーハウジング事業の推進
公営住宅のバリアフリー化

2. 緑豊かなすまいづくり

生垣助成制度の拡充



災害復興公営住宅（岡田山）



復興に向けて
本格始動

平成7年度

当初予算

と

補正予算

みぞう

未曾有の大震災被害の復興に向けて

今回の大震災による被害は計り知れません。しかし、人命救助や食糧・飲料水・仮設住宅などの生活支援、道路や水道等の工事や危険家屋等の撤去など、私たちのまちが受けたダメージを一刻も早く元どおりにし、新しい活力を生み出せるように対策を講じなければなりません。西宮市の取り組みを予算を通して見てみましょう。

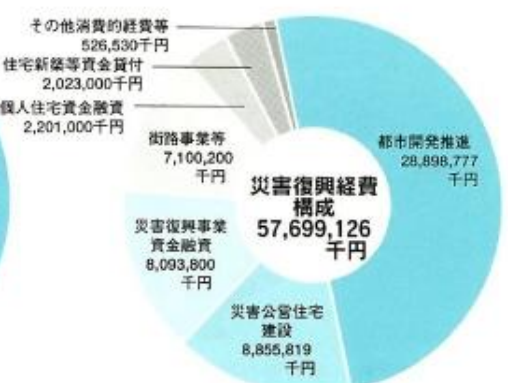
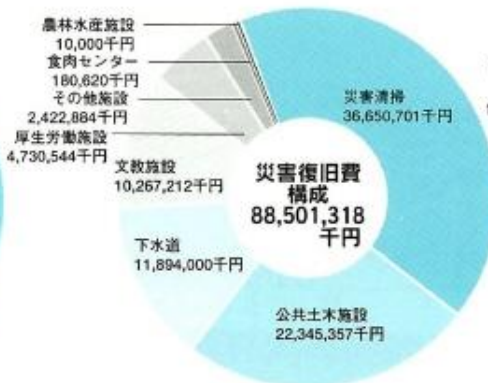
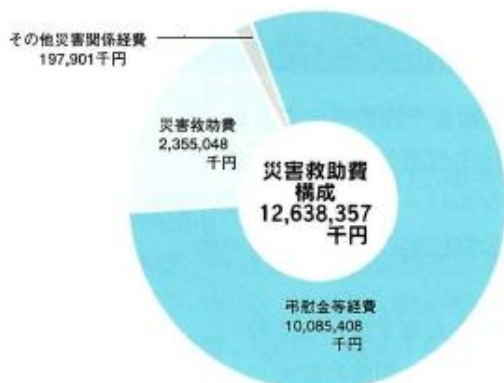
災害関連の予算は大きく「災害救助」「災害復旧」「災害復興」に必要な費用を取り決めています。主な財源は、国や県から交付される国庫支出金・県支出金、災害対策用に特別に行われた起債、その他、そして市民税や固定資産税等の一般財源からの拠出となります。

平成6年度予算は平成7年3月まで施行され、翌4月からは平成7年度予算となります。平成6年度に施行された予算を見てみると、おおそ災害救助費が261億9千万円、災害復旧費が304億1千万円、災害復興費が74億5千万円、総額640億5千万円がわずか2カ月

半の間に投じられました。地震直後の救助に相当な費用がかけられたのがわかります。平成7年度予算では災害救助よりも災害復旧と復興に重点が置かれ、おおそ災害救助費が126億4千万円、災害復旧費が885億円、災害復興費が577億円、総額1588億4千万円が計上されています。災害関連予算規模としては両年度併せると総額約2228億9千万円かかり、民間の被害を加えれば今回の大震災の被害がこれ以上のものであったことがわかります。



平成7年度救助・復旧・復興予算配分 & 財源内訳 ※平成7年6月現在



震災後 実施された 施策

震災直後から行われた西宮市などの施策は、災害弔慰金や義援金の支給、市民税・固定資産税・国民健康保険料などの減免、中小企業向け各種融資制度や仮設共同店舗の設置助成などをはじめ、各種相談窓口の設置や保健に関する指導、私道の舗装復旧など多岐に渡って取り組んできました。



施策一覧表

●避難所および一般市民への対応

- 1.食糧供給 毎日3食を避難所へ供給
- 2.応急給水 給水車により対応
- 3.生活用品 毛布、衣類、ティッシュペーパー等の供給
- 4.簡易トイレ 市民対象に救援物資の配布
223カ所 744基 (3/23現在)
(避難所以外の施設への設置を含む)
- 5.救護所 105カ所 1071班
その他の避難所については「診療チーム」により巡回診療、また全避難所について「公衆衛生チーム」が巡回
- 6.特設公衆電話など 公衆電話 (1/31現在)
200カ所・790台
FAX (1/31現在)
60カ所・90台

●被災者証明書

受付件数105,192件
(別途事業主分23,991件)
(6/16現在)

●仮設住宅等

- 建設局に仮設住宅対策室を新設
- 第一次募集 1,593戸
- 第二次募集 3,315戸 (うち第一次分の補欠として45戸を充当する)
- 第三次募集 約1,500戸
- その他 公的宿泊施設及びボランティアから提供の申出のあった住宅等のリストを避難所へ配布

●倒壊家屋の処理 倒壊家屋解体申込件数 17,220件

■義援金配分構成 (7/31現在)



項目	国・県・市などの施策内容
給付	災害弔慰金 災害障害見舞金 災害援護金 義援金 要援護家庭激励金 重傷者見舞金 教育(保育)助成金 持ち家修繕助成義援金 民間賃貸住宅入居助成義援金
融資 貸付 助成	災害援護資金の貸付 生活福祉資金特別貸付 住宅補修・家財購入資金の貸付 [住宅など] 個人住宅資金融資あっせん特例制度 住宅金融公庫災害復興住宅資金融資 既成宅地等防災工事資金融資あっせん制度 [中小企業] 西宮市地震災害特別融資 国民金融公庫災害貸付 中小企業金融公庫災害復旧貸付 商工組合中央金庫災害復旧貸付・特別利率貸付 兵庫県緊急災害復旧資金・緊急特別資金 小売市場・商店街仮設共同店舗設置助成
税金 国民年金 国民健康保険 医療助成	[税金] 市民税・固定資産税・都市計画税・事業所税の減免と申告・申請・納期などの延長 [国民健康保険] 保険料の減免 納期の延長 葬祭費の支給 保険証再発行 一部負担金の免除 保険証なしの診療の特例 [国民年金] 保険料の免除 (特別)児童扶養手当の所得制限の解除 [医療助成] 老人保健法医療受給者の一部負担金の免除 福祉医療受給者証などの再発行
まちづくり	森具地区・西宮北口駅北東地区の建築制限の区域指定と、都市計画案の公開 「震災に強いまちづくり条例」施行 開発指導要綱などの改正 被災者向け特定優良賃貸住宅(西宮タイ・アップ住宅)制度の事業主募集 復興に向けた市民提案の募集 都市開発局を都市復興局に再編強化 私道の舗装復旧工事 民間宅地擁壁の復旧工事
教育	就学奨励金 給付奨学金 貸付奨学金 公立幼稚園保育料など減免 市立高校授業料など減免 埋蔵文化財の調査にかかる費用を助成
その他	各種相談窓口設置 保育所の保育料減免 歴史史料の救済呼び掛け 住宅の危険度判定調査 住宅の応急修理 各種検診料の免除 保健婦の仮設住宅訪問指導 避難所巡回検診・健康相談 レンタサイクル 市外避難者へ市政ニュースを郵送

家族が…、家が…、まちが…



2階部分が完全に落ち、1階部分を押しつぶした。
(鴨尾町5丁目)

倒壊した家屋の下敷きになった車の姿があちこちで見かけられた。(神明町)



多くの人が一瞬にして、大切な家族の命や家、家財を奪われました。しかし、生きていくためには悲しんでばかりいてはいられません。水、食べ物、衣類…。余震の恐怖や寒さに耐えながら、近所の人と協力し合い、生活を取り戻そうとするたくましい光景があちこちで見られました。



震度7の地震は多くのマンションも倒壊させた。(安井町)



土砂崩れで多くの犠牲者が出た仁川百合野町。



とりあえず集めた食料で腹ごしらえ。



道端に集まり、不安そうな人々。



破裂した水道管からあふれ出す水をくむ人々。



地震直後はなすすべもなく、多くの人が途方に暮れた。

犠牲者のめい福を祈る、悲しい花束。



跡形もなく壊れた家々。(屋敷町)



壊れた家のそばで…。



倒壊したわが家から大切な物を探す。

希望の 明日へ 歩み出す 第一歩

壊滅的に破壊された西宮のまち。倒壊した家屋やビルなど昨日までとは一変した光景が広がっていました。しかし、すぐにも始まった救援・復旧作業がまちの至る所で見られました。

「復旧のつち音が聞こえる」



甲子園浜の廃材仮置場には、連日廃材を山積みにしたトラックが列を作る。

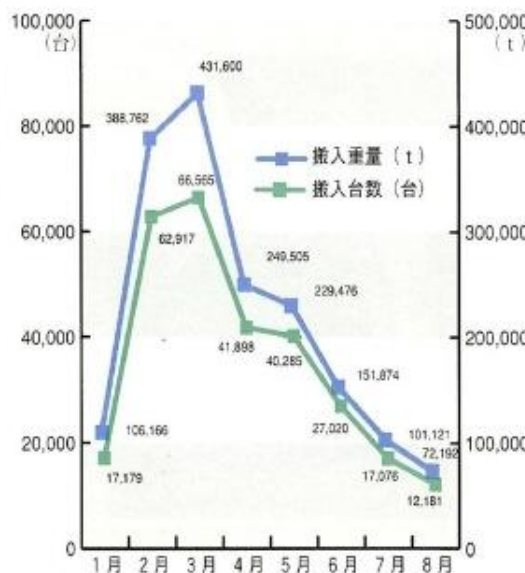
まちの復旧・復興のため、倒壊した建築物などの解体・除去が急務となりました。このため市はまず、1月30日に倒壊家屋などの解体・除去の処理申込を受付。業務を迅速に進めるため、2月6日には倒壊家屋等対策室を土木局に設置しました。7月末現在で、家屋処理の受付棟数は1万8036棟(戸数は3万1657)にも及び、このうち解体済みは1万5923棟です。

解体による廃材の処理も大きな問題です。甲子園浜埋立地の廃材仮置場には、がれきを積んだトラックが毎日走り、仮置場には廃材が山のようになされました。木材などは当初は野焼きも行いましたが、現在は仮設焼却炉で処理を行っています。



上/膨大な量の廃材の山
下/甲子園浜での野焼きによる処分

■ 甲子園浜廃材仮置場月別搬入台数・重量推移



甲子園浜の仮設焼却炉



ホコリをたてないように、放水しながらの倒壊家屋の処理作業。

「生活の再建に向けて」



仮設住宅の抽選。被災者のこれからの生活設計の大切な第一歩。



仮設住宅は市内の公園などの公共地を中心に建設。



家を失った人たちのため、市内の公園や野球場、学校、民有地などで1月19日から応急仮設住宅の建設が始まりました。8月末日現在、市内の仮設住宅は122カ所計4901戸となっています。

また、西宮市以外の兵庫県下では8月末日現在、宝塚市、川西市、猪名川町、高砂市、加古川市で合計237戸、また、大阪市内や府下に合計386戸で、全体では5524戸が提供されています。

お年寄りなどのためのケア付き仮設住宅も提供されているほか、おおむね100戸以上の仮設住宅の建設地に、仮設住宅入居者の交流やコミュニティ活動などの拠点として利用してもらう「ふれあいセンター」が建てられます。(7施設が建設予定)



高齢者の入居も多い仮設住宅。新しいコミュニティづくりが大切な課題のひとつ。



瓦林ふれあいセンターの開所時に行われた健康相談。

たくましく 生きよう、 未来を見つめて

公共施設の被害は市立の学校園にも及び、校舎やグラウンドにき裂が入り使用不能となったり、避難所として教室や体育館が提供されるなど通常の授業が再開できるのが困難でした。市立の幼稚園、小学校、中学校は1月28日まで一斉休業となり、一部を除き1月30日から授業が再開されました。

再開が遅れていた学校園も1月31日に神原小学校、2月1日に夙川・津門・安井・上ヶ原南小学校、上ヶ原中学校、同3日に西宮東高校、同6日に大社幼稚園、大社・広田・甲東小学校、西宮西高校、同10日に門戸幼稚園、同17日に西宮高校、同20日に西宮養護学校が再開しました。

被災した児童・生徒は8037人に上り、このうち死亡者56人、重傷者11人を数える痛ましい結果となりました。また、親を亡くした児童・生徒は46人、父母以外の家族を亡くした児童・生徒は161人、自宅が被災し住めなくなった児童・生徒は5733人もいました。



液化化現象が見られた高須東小学校の校庭。



香櫨園小学校の仮設教室での授業風景と友愛運動会。子供たちの笑顔も戻りつつある。

学校園の施設被害状況

◆学校園施設（被害が重なる学校園あり）	
大きな被害を受けた学校園	13校園
渡り廊下に大きな被害を受けた学校	5校
体育館の内装などに大きな被害を受けた学校	13校
運動場に大きな被害を受けた学校園	35校園
プールに大きな被害を受けた学校園	16校園
校舎などに雨漏りの被害を受けた学校園	21校園
学校園舎・外周・設備関係などに被害を受けた学校園	87全校園
◆改築・補強・補修の基本方針	
改築を要する学校園	9校園13棟
構造補強などの大規模補修工事を要する学校	10校園14棟
渡り廊下の改築を要する学校	4校
何らかの補修工事を要する学校園	87全校園

大手前女子大学の崩壊した校舎。



仮設教室設置校一覧

学校園名	普通教室	特別教室	管理諸室	給食室	合計
大社幼稚園		2	3		5
香櫨園小学校	14	12			26
広田小学校	16			3	19
甲東小学校		8			8
上ヶ原小学校	17	10	6		33
上ヶ原南小学校	15		3		18
段上小学校	17		1		18
上ヶ原中学校	19	22	5	3	49
甲斐中学校		16			16
市立西宮高校	31	25.5	23.5		80
合計（10校園）	129	95.5	41.5	6	272

（平成7年6月28日現在）

（教室数は普通教室の広さに換算した数字）

市立西宮高校のグラウンドに走る地割れ。校舎も損壊した。



市立西宮高校の調理室。



海外から寄せられた励ましの手紙の数々…。



子供の 主な症状

阪神・淡路大震災は目に見える被害だけでなく、子供たちの心にも大きなダメージを与えています。西宮市教育委員会は、心のケアについてのアンケート調査を4月と6月の2回、実施しました。ここではっきりしているのは、4月よりも6月の方が心のケアが必要と思われる子供の数が増えていることです。

主な子供の症状は、幼稚園児には赤ちゃんがえりが多く、小学生になると暗やみ・物音に対する不安や幼児化傾向が多くみられます。中学・高校生では不眠や精神的な不安定さがみられます。

心のケアが必要と思われる子供の数

(4. 6月対比)



よみがえれ、笑顔! 希望! 夢!

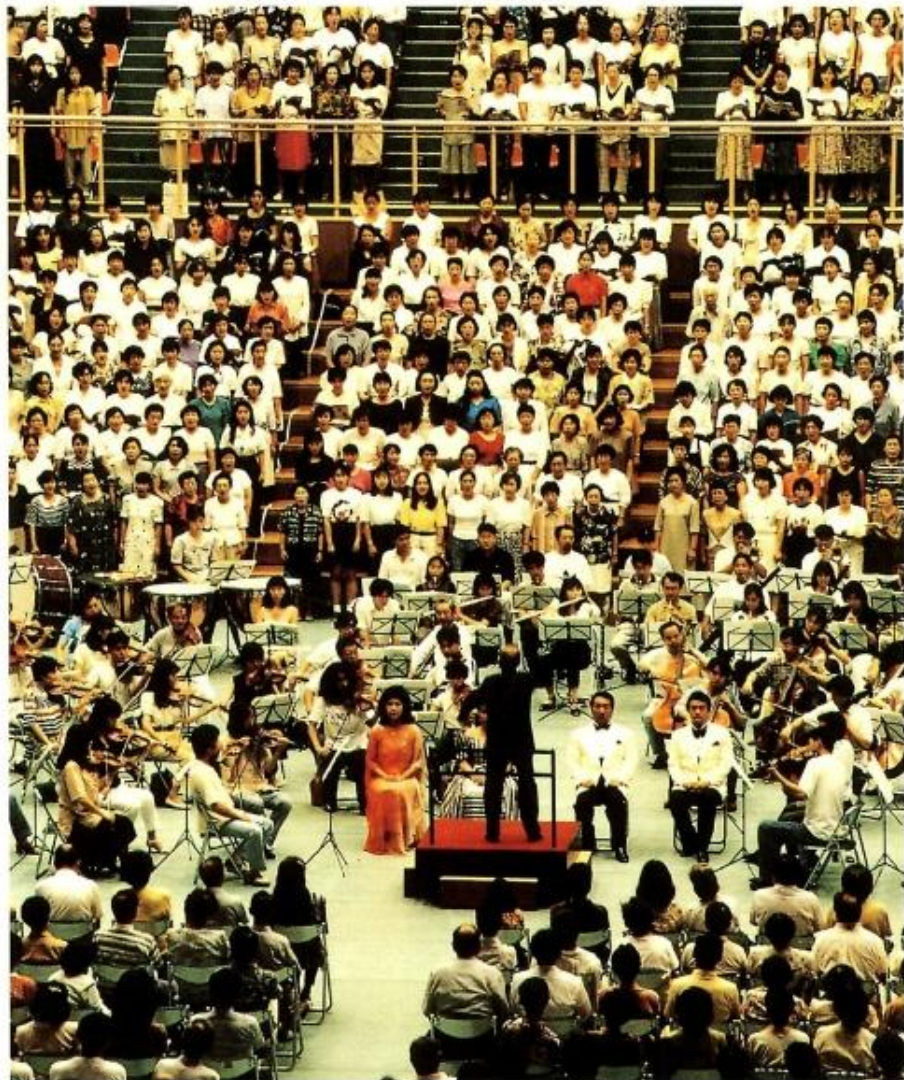
まちに活気と笑顔を呼び戻そうと、様々な復興支援イベントが開かれています。市民同士はもちろん、他都市の皆さんや歌手、海外のアーティストなど多くの人たちが来西し、被災者たちの心を安らげ、励ましてくれました。



つきたてのおもち。力がつくよ。



街と暮らしの復興に向け、4月15・16日に、阪急西宮スタジアムで「ふれあい春市」が開催され、多彩な楽しいイベントが繰り広げられた。



8月20日、県立総合体育館で開催された被災地コンサート「第九シンフォニーのつどい」。市民や専門家など約1000人が出演し、復興への熱い思いを「第九」にのせて力強く歌いあげた。



夏の全国高校野球大会。甲子園球場のスタンドに元気いっぱいの応援が帰ってきた。



西宮ボランティアネットワークが「がんばれみやっこフェスティバル」を5月3日～5日にJR西ノ宮駅周辺と「フレンテ西宮」全館で開催。ステージショーや大道芸、ゲームコーナーなどで子供たちも大喜び。



5月16日阪急西宮スタジアムで人気ロック・バンドの「ボン・ジョヴィ」が復興支援コンサートを開催。市民100人が招待されたほか義援金が手渡された。



橋幸夫さん・三田明さん・黛ジュンさん・山本リンダさんらが出演して行われた「西宮ふれあいコンサート」(4月16日中央体育館前にて)



5月28日フレンテ広場で開催された「プロムナードコンサート」。音楽で元気を出して!と西宮市吹奏楽団が軽快な演奏。子供たちの飛び入り参加も。

阪神・淡路大震災

その瞬間から現在に至るまで



仮設教室での授業

- 1月** 17日(火) **地震発生** (午前5時46分)
西宮市災害対策本部設置 (午前7時5分)
6市5町に災害救助法が適用される
- 19日(木) 避難者数最大4万4351人を記録
家庭ごみの収集を再開
- 20日(金) 避難所数最大194カ所
仁川百合野町 (50世帯) に避難勧告発令
- 21日(土) 兵庫県南部地震非常災害対策本部現地対策本部設置 (21日閣議決定、22日事務所開設)
苦楽園四番町 (80世帯)、宝生ヶ丘1・2丁目 (142世帯)、生瀬高台 (35世帯) に避難勧告発令
- 23日(月) 仮設住宅申込受付
- 25日(水) 激甚災害指定
- 30日(月) 倒壊家屋などの解体、除去などの処理申込受付開始
- 31日(火) 西宮市災害市街地復興基本方針を発表



▲民家倒壊



▼阪神高速道路神戸線

▼避難所 (中央体育館)



▲天皇陛下来西



▲給水のため並ぶ人々



▲ヘリ移送による医療体制

- 2月** 1日(水) 西宮市震災復興本部を設置
市内2地区を建築基準法に基づく建築制限区域に指定
- 3日(金) 苦楽園四番町、宝生ヶ丘1・2丁目、生瀬高台の避難勧告一部解除
- 6日(月) 土木局に倒壊家屋等対策室を設置
プロジェクト・チームの市街地復興室を設置
災害特別融資 (中小企業者対象) の申込受付開始
- 7日(火) 建設局に仮設住宅対策室を設置
- 12日(日) 兵庫県災害援護金、日本赤十字社などの義援金交付受付
- 13日(月) 被災者証明書発行の受付開始
市庁舎仮庁舎建設工事
- 15日(水) 臨時市議会開会
- 16日(木) 仁川百合野町、生瀬高台の避難勧告解除



▲復旧作業工事

▼西宮市犠牲者合同慰霊祭



- 苦楽園四番町、宝生ヶ丘1・2丁目の避難勧告一部解除
- 17日(金) 住宅総合相談所を開設
- 18日(土) 仮設住宅のかぎ渡し始まる
- 19日(日) 応急仮設住宅第2次募集
- 20日(月) 粗大ごみの収集受付を再開
- 26日(日) 西宮市犠牲者合同慰霊祭 (県立総合体育館)
災害弔慰金の受付を再開
- 28日(火) 水道の応急復旧完了

- 3月** 1日(水) プロジェクト・チームの災害援護資金貸付等対策室を設置
二次避難所をかぶとやま荘に開設
- 3日(金) 「復興にかかるまちづくり」説明会を開催
- 10日(金) 西宮市防災対策検討委員会を西宮市災害対策本部に設置
- 13日(月) 3月定例市議会開会
- 20日(月) 災害援護資金貸付の受付開始
- 27日(月) 震災復興についての提言 (市民提案) を募集

- 4月** 1日(土) 都市復興局を設置するなど市の組織を改正
JR東海道線が全通
- 4日(火) 兵庫県南部地震非常災害対策本部現地対策本部を廃止
- 11日(火) 都市ガス復旧が一部地区除き完了 (市内復旧率99.9%)
- 17日(月) 防災指令第3号を第1号に変更
- 20日(木) 第3次応急仮設住宅の申込受付開始

- 5月** 18日(木) 西宮・芦屋・宝塚の3市長が国へ復旧・復興対策に関する要望書を提出
- 25日(木) 第2次義援金などの申請受付開始

- 6月** 9日(金) 西宮市震災復興計画を策定
- 12日(月) 阪急神戸線が全通
- 26日(月) 阪神電鉄が全通

- 7月** 19日(水) 西宮市住宅復興3カ年計画を策定
- 27日(木) 阪神間6市長、共同要望書を政府に提出

西宮の再生に向けて

西宮市長 馬場 順三



平成7年1月17日未明、阪神・淡路地域を突然襲った兵庫県南部地震は、一瞬にして5500名を超える人命を奪い、町並みを破壊し、都市機能を混乱に陥れました。

西宮市も甚大な被害を被りました。死亡者は1088名を数え、倒壊家屋にいたっては、本市全世帯約16万世帯のおよそ4割にのぼる6万世帯が全・半壊するなど未曾有（みぞう）の大災害となりました。

地震発生後8カ月余りが経過し、市民生活もようやく落ち着きを取り戻しつつあり、復興に向けての力強い息吹が感じられるようになってまいりました。西宮市も震災復興計画を基に、文教住宅都市の再生を目指し、住宅、市街地

の整備、保健・福祉、教育・文化、産業、防災、交通などあらゆる分野で、『安全で安心してらせるまち』の実現に最大限の努力を傾注する決意であります。

この小冊子は、震災の犠牲になられた多くの市民の方々への鎮魂の思いを込め、被災の状況、応急復旧の対応、復興への計画などを、震災直後から復興計画策定までの間の記録として写真を中心にまとめたものであります。関係各方面での今後の参考にしていただければ幸いです。

最後に、このたびの災害において、不眠・不休で救助・救援活動に大変なご尽力をいただいた数多くの皆様や、全国からの温かいご支援に対しまして、改めて心より感謝を申し上げます。

平成7年9月30日



西宮市旗



発行年月日
編集・発行

平成7年9月30日
西宮市役所 市長室広報課
〒662 西宮市六湛寺町10番3号
TEL.0798-35-3400

印刷・編集協力

凸版印刷株式会社